

# 「海士の地域・福祉の未来を考える会」開催

## 異業種メンバーの交流から生まれる『新たな福祉観』を求めて



2月2日(月)、保健福祉センターひまわりにおいて、海士町社会福祉協議会が主催する「海士の地域・福祉の未来を考える会」が開催されました。

この会議は、平成27年度から5年間の『海士町地域福祉活動計画』を策定するために立ち上げられたもので、昨年12月の第1回で異業種のメンバーが初顔合わせをし、今年1月の第2回で発想を広げ、そして最終回となる今回は、『海士の新たな死生観』という切り口から未来の福祉を考えました。

前々回の計画策定時には「在宅福祉の充実」を目指し、前回は「地域福祉の充実」、そして第3期となる今回のテーマは従来の福祉の概念を超える「新たな福祉観」を練り上げようということで、「地域や福祉の充実を図る時、福祉専門職者だけの発想では限界がきている。新たな地域福祉は異業種の皆さんと一緒に考える必要があると考えました」(社協の片桐一彦事務局長)。

また、講師としてインプロヴァイザーの鈴木聡志さんも参加。「インプロ」、すなわち「即興表現」という手法を使って、自分たちが死に向かっどう生きていか、人生をどのように閉じたのかのイメージを探る手がかりを、体を使って考えよう、という初の試みがなされました。

意見交換では、「団塊の世代が自然とつながっていくける仕組みがあるといい」、「自宅で介護する人を休ませるシステムも必要。近所でチームを作ったり、集落介護員という考え方もある」、「福祉は難しく考えられがち。きっかけとして気軽に職場体験できると敷居が下がる」、「互いに支えあう繋がりを強め、継続していくためには、『遊び』の要素が大切」といった実にさまざまな意見が出ました。

今回の議論を踏まえた新たな『地域福祉活動計画』が4月から動き始めます。4月11日(土)にひまわりで開催予定のフォーラムでは、新計画の概要も発表されますので、ぜひご参加ください。



この日に学んだ「インプロ」を活かして全員でポーズ。さまざまな職種の人が共に福祉を考える貴重な機会となりました



## 隠岐潮風ファームに県が太鼓判

### おい ～『美味しまね認証』取得



牛舎の世話を担当する野津さん(左)と船江さん

ブランド黒毛和牛「島生まれ、島育ち、隠岐牛」の飼育・販売を手がける有限会社隠岐潮風ファーム(代表 田仲壽夫)が、島根県知事が認証する『美味しまね認証』を取得しました。

「美味しまね認証とは、「安全」と「美味しさ」を兼ね備えた特産品をつくる生産者や生産方法を島根県知事が認証する制度で、海士町ではこれまでに「岩がき春香」を養殖する海士いわがき生産株式会社が平成22年2月に取得しています。

## 元気な海士

パワー溢れる海士人の活動・活躍をご紹介します!

このたびの「隠岐牛」の認証取得は隠岐島前では「岩がき春香」に次ぐ2件めで、県内全域では66番目(肉では4番目)の「美味しまね」産品となりました。

認証を受けるためには、生産の各工程で品質管理を徹底しているか、環境に配慮した生産方法に取り組んでいるかなどの点が厳しく審査されます。潮風ファームでは、消毒マット等により牛舎の衛生管理をさらに徹底したり、餌作りや餌やりに関する厳密な記録とデータ保存など、生産工程の情報公開にも取り組み始めました。

野津さんは、「美味しまね認証のポイントは、生産者側の論理ではなく『消費者目線』だということ。消費者の皆さんに安心して食べて頂けるといことは隠岐牛ブランドのアピールになると思っています」と、認証効果への期待を込めて語っています。

島根の自慢、海士の自慢の特産品が、より多くの消費者の皆さんに愛されますように!

## 「島前研修交流センター」竣工

隠岐島前高校の敷地内、鏡浦寮の隣に「島前研修交流センター」(以下、交流センター)が完成し、平成26年12月22日(月)、竣工祭と竣工式が執り行われました。

交流センターは島前高の生徒が主体的に運営し、地域の方々にも足を運んでもらい生徒たちと交流を深められるような施設で、「島留学」で島外からやってきた学生たちのための宿泊機能もあります。基本コンセプトは「みんなでつくる『島家』、いつでも還れる『島家』」と設定されました。



雪が舞う寒さの中で、お祝いの餅投げ

竣工式では山内町長が式辞で、「この交流センターは、隠岐島前高校、隠岐國学習センターと並ぶ、全人教育(※)の3拠点の一つとなる。地域はもちろん世界にも開かれた場、多文化・多世代交流の場として『グローバル人材』の育成を目指すための施設であり、島前の課題に自ら立ち向かっていけるような若者がここから輩出されるよう期待する」と述べました。

海士町では、「魅力ある人づくりこそが、これからの魅力ある島(地域)づくりの核心となる」(山内町長)との考えのもと、教育環境の充実と整備に努めています。

新たな拠点として誕生した交流センターも有機的に機能させ、「島まるごと人づくり」の取り組みを今後も進めて参ります。

(※)全人教育

:知識や技能だけではなく感性なども重視して、人間のさまざまな資質を、調和的かつ全面的に育成しようとする教育。